

2014年神奈川県平和行進を終えて

～新たな変化と核兵器廃絶への力～

原水爆禁止神奈川県協議会事務局長 笠木 隆

5月7日、東京から引き継いだ2014年平和行進は、13日間神奈川県内34すべての自治体を歩き、19日静岡県に引き継ぎ、大きな成果を残して終わりました。

雨天は半日だけと天候にも恵まれ、参加者は5000人を超えました。今年の平和行進は、特別に重要な意義を持っていましたが、神奈川県内の13日間の平和行進では、新しい変化と可能性、核兵器廃絶運動の明日への力を示すものとなりました。

核兵器廃絶・平和への関心と願いの高まり

今年の平和行進への参加者が5000人余と、特別に多い参加者となったわけではありませんが、参加者や沿道、町の人の変化を感じました。若い参加者や親子連れ、バギーカーの参加者が例年になく多く参加しました。また、事前に配布したチラシを見ての参加者や「私も参加します」と数百名の参加しゃなど、これまでになかった変化がありました。沿道の人の反応もかつてなく温かいものでした。拍手をする人、マンションから手を振る人、事前に配布した署名用紙に署名し募金とともに渡してくれる人、お金がかかるだろうと、財布から募金をする人、1年間貯めた「1円募金」を手渡してくれた人が2人いました。「この折り鶴を広島に届けてください」と沿道で手渡す親子の床屋さん。出発集会で待っていて、5000円の募金を手渡し「何か私が平和行進に来た証拠になるものがありますか」と訪ね、バッジやパンフなどを渡すと「夫の仏壇に供えるんです。募金を届けることが夫の遺言なので・・・」と話す高齢の女性など・・・。これらは、ほんの一部ですが、今、核兵器廃絶の声をあげなければという強い決意みたいなものを感じました。

団体の参加も、JMIUや国公共闘の各支部などリレー旗をつなぐことに新たな決意が表れた団体がありました。

これらの変化は、2015年を展望し核兵器廃絶への強い思いの表れであり、安倍政権の集団的自衛権行使など「戦争する国づくり」への危機感のあらわれと受けとめています。

自治体の対応のさらなる前進も

34すべての自治体を訪問し、首長や議長から激励のあいさつや核兵器廃絶の決意を示すメッセージをいただきました。直接首長が参加し激励してくれた自治体も7自治体に及びました。また、賛助金やペナントを寄せてくれた自治体、お茶や牛乳、水などの差し入れやおもてなしをする自治体も多数ありました。これらの一つ一つは、自治体の核兵器廃絶への新たな決意を示すものとして今後、共同の力となるものでした。



被爆者の核兵器廃絶への強い決意と奮闘

神奈川県内の平和行進では、行進の先頭をいつも被爆者が歩きます。平均年齢が80歳近くとなり、歩くこともままならない状況になってきていますが、今年も、一歩でも歩き「核兵器のない世界を」訴えたいと、97歳や93歳の被爆者が歩きました。また、どこでも80歳を超えた被爆者が生きているうちは歩くことが自分たちの責任だとがんばり、多くの人に感動を広げ、新たな核兵器廃絶への輪を広げました。

(原爆被災者の会、93歳の井口俊朗さん(真ん中)を先頭に。葉山町)

共同のいっそうの前進

神奈川県内の平和行進は、県原爆被災者の会、県生協連、原水協などで構成する国民平和行進県実行委員会の三者で平和行進懇談会を組織しおこなっていますが、それぞれの持ち味と役割を発揮し、共同をさらに前進

させることができました。これは、2015年に向けて共同の取り組みをすすめようと今準備し、いっそう発展させていく決意です。

海外代表の青年国際リレーの新たな可能性



今年も、マギティング・ファブロスさんの海外青年の参加があり、どこでも共感を持って受けとめられ、核兵器廃絶運動の国際的な前進を象徴するものとして力を発揮しました。通訳の確保などなかなか難しいこともありましたが、参加者に「誰か通訳を！」と呼びかけると、「少しなら私が・・・」と応えてくれる人も現れるコースがいくつかあり、連帯が広がったのは大変嬉しいことでした。

マギティングさんが、米海軍横須賀基地ゲート前で行進団とともに、英語で核兵器廃絶と平和のスピーチをしたことは、マスコミでも報道され大きな感動でした。静岡との引き継ぎ集会でのマギティンさんのメッセージは、平和への熱い思いと連帯の気持ちの表れた

感動的なスピーチでした。

(上写真・5月19日湯河原町行進。右下写真・フィリピンのマギティングくんから、グアムのアーサーくんへピースフラッグが引き継がれました。)

市民とともに歩む新たな平和行進へ

平和行進の新たな変化を求める声が聞かれて久しいですが、神奈川でもその努力をささやかながらおこなってきましたが、その変化が感じられる平和行進への脱皮か今年も前進したと思います。“新しい参加者を” “若い参加者を” “広い参加者を” の願いを前進させるため、アピールの仕方、行進の隊列の作り方、集会のやり方などに一步一步ですが変化をつくり出しています。



神奈川県では、今年の平和行進の成果を、核兵器禁止条約アピール署名の飛躍、世界大会の400名参加実現、2015年ニューヨーク行動120名参加を完結させるための力にして、引き続きがんばってまいります。